



## 預言者の叫び

### 暗唱 聖句

「人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか」  
(ミカ6:8、口語訳)

「人よ、何が善であり／主が何をあなたに求めておられるかはお前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩むこと、これである」  
(ミカ6:8、新共同訳)

### 今週の 聖句

サムエル記上8:10～18、アモス5:10～15、ミカ6:8、  
創世記19:1～13、エゼキエル16:49、イザヤ1:15～23

### 安息日 午後 7/27

### 今週のテーマ

旧約聖書の預言者たちは、聖書の中で最も興味深い登場人物です。彼らの耳障りな声、大胆なメッセージ、悲しみ、怒り、憤慨の気持ち、時折のメッセージの実演などによって、彼らは無視しがたい人たちになりました。彼らが周囲にいたら、必ずしも居心地はよくなかったかもしれないとしても……。

おもにイスラエルとユダに遣わされた彼らは、神の召しに立ち帰るようにと選民たちを招き寄せていました。民とその指導者たちは、周辺諸国の偶像とその生活スタイルにいとまやすく飲み込まれてしまったからです。悔い改めるように彼らを促すことが預言者たちの報われない務めであり、そのために、時として神の愛や神の過去の行為を彼らに思い出させたり、時として神に背を向け続けた場合の結果を警告したりしました。

以下で改めて見るように、預言者が民やその指導者たちに警告した罪や悪の中で最も大きなものの一つは、民の中にいる貧しい人、乏しい人、無力な人たちを虐げることでした。確かに、偶像礼拝も悪いことですし、偽りの宗教的習慣に従うことも悪いことです。しかし、弱く貧しい人たちを利用することは、非難に値しました。

イスラエル国家のための神の明確で詳細な計画にもかかわらず、イスラエルの人々は彼らの召しに従って生きることをめったにしませんでした。彼らは〔約束の〕地に定着してから多くの世代を経ぬ間に、「ほかのすべての国々のように」（サム上8:5）彼らの国を導く王を任命してほしいと、預言者であり、裁き人であったサムエルに求めました。

サムエル記上8:10～18を読んでください。王を求める人々の願いに対して、サムエルは警告を彼らに与えました。サムエルは、このことがほかの面でも周辺諸国のようになる一歩であると認識しました。サムエルは最初の王であるサウルに助言しようとしたのですが、彼の預言が現実となるのに、さほど時間はかかりませんでした。イスラエル王国の絶頂の時代でさえ、ダビデもソロモンも、誘惑、腐敗、過剰な権力を免れなかったのです。

イスラエルとユダの王たちの治世を通じて、神の応答の一つは、預言者を遣わし、神のみ旨を語らせ、イスラエルの人々とその指導者たちに、彼らの社会の中の忘れ去られた人たちに対する神から与えられた責任を気づかせることでした。

ヘブライの預言者たちが書いた物の中に、私たちは、正しく生きよ、社会の中で公正をなせ、という繰り返される呼びかけを目にします。イスラエルとその指導者たちの不誠実に立ち向かう預言者たちは、黙っている人たち、とりわけイスラエルが神の御心に従わないことによって傷ついた人たちのための定期的かつ執拗な声でした。

旧約聖書の預言者たちのこの情熱についてじっくり考えた思想家アブラハム・J・ヘッセルは、私たちの自己満足と、正義を執拗に求める預言者たちの声とを対比しています。「預言者たちをゾッとさせた物事は、今日でも世界中で日常的に起きている。……不正行為に対する息もつかせぬほどの彼らの苛立ちは、私たちにヒステリーという印象を与えるかもしれない。私たち自身は、不正行為や、偽善、うそ、暴力、貧困のあらわれを絶えず目にしているが、めったに腹を立てたり、ひどく興奮したりしない。預言者たちには、小さな不正行為さえ宇宙のように大きく思えるのである」（『預言者』3、4ページ、英文）。

このような預言者たちは、神の心に対する洞察を私たちに与えてくれます。彼らが神に代わって語る時、私たちは、涙にあふれた神の目を通してこの世界の不正や苦しみを見ることができるのです。しかし、この情熱はまた、私たちの周りにいる人たちの抑圧や悲しみを和らげ、改善するために神とともに働くようにという、行動への呼びかけでもあるのです。

◆ いかにして、私たちは、「ほかのすべての国々のように」なるうとして自分やほかの人にとって有害になることがありますか。

「わたしは預言者ではない。預言者の弟子でもない。わたしは家畜を飼い、いちじく桑を栽培する者だ。主は家畜の群れを追っているところから、わたしを取り、『行って、わが民イスラエルに預言せよ』と言われた」(アモ7:14、15)。

アモスは、預言者になる資格が自分がないことを極めて率直に認めています。彼がイスラエルの国にメッセージを伝えるとき、彼は語りたいと思っていることに聞き手を引きつける能力を発揮します。

彼は一般的な形で文章を始めると、周辺諸国(シリア、ペリシテ、フェニキヤ、エドム、アンモン、モアブ)を列挙し、彼らの犯罪、暴力、残虐行為を詳しく述べていきます(アモ1:3～2:3参照)。神はそれらのゆえに罰するのです。イスラエルの人々が敵に対するこういった非難を賞賛していたことは、(これらの国々の犯罪の多くがイスラエル自身に対するものであったので)想像に難くありません。

次にアモスは、少し祖国に近づき、イスラエルの南の隣人(今や分裂した王国)であるユダの人々に対する神の裁きを宣言します。神に代わって語るアモスは、彼らが神を拒絶したこと、神の掟に従わなかったこと、彼らに下る罰に言及します(アモ2:4、5参照)。再び私たちは、アモスが周囲の人々の悪事を指摘するのを聞きながら、北の国の人々が拍手している姿を想像できます。

しかし、やがてアモスは聴衆のほうを向きます。アモス書の残りの部分は、神の目から見たイスラエルの悪、偶像礼拝、不正行為、度重なる失敗に焦点を合わせているのです。

**問1** アモス3:9～11、4:1、2、5:10～15、8:4～6を読んでください。彼はどのような罪を警告していますか。

アモスは含みのある言い方をしておらず、彼の警告は破滅への警告ですが、彼のメッセージは、神に立ち帰るようにとの嘆願で味つけされています。そこには、彼らの正義感や、彼らの中にいる貧しい人たちへの配慮を回復することが含まれているのでしょう——「正義を洪水のように／恵みの業を大河のように／尽きることなく流れさせよ」(アモ5:24)。アモスの預言の最後の数節は、神の民が将来回復することを指摘しています(同9:11～15参照)——「彼らが、背信の極に達して、最大の必要に迫られていた時に、彼らに対する神からの言葉は、ゆるしと希望の言葉であった」(『希望への光』497ページ、『国と指導者』上巻250ページ)。

◆ 不正を正すために、厳しい口調で言わなければならないときがありますか。そのようなとき、口調が適切であるかを、どうやって見極めたらよいでしょうか。

**問2** 「人よ、何が善であり／主が何を前にお求めておられるかは／前にお告げられている。正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩むこと、これである」（ミカ6：8）。あなたはどのようにこれらの言葉を実行できますか。

ミカ6：8は、おそらく聖書の中で最もよく知られている聖句の一つでしょう。しかし、標語やポスターにされる多くの聖句と同様、私たちは、自分が認める以上に、この聖句の背景をあまりわかっていないかもしれません。

**問3** ミカ2：8～11と3：8～12を読んでください。ミカが非難した人々は、どのようなことをしていましたか。

ユダの王アハズの治世は、神の民がこの国の歴史と霊性において新たな低さに達するのを目にしました。偶像礼拝と、それに関連したさまざまな悪しき習慣が増え広がっていました。その一方で、当時のほかの預言者たちも指摘したように、貧しい人たちが搾取され、食べ物にされ続けていたのです。

ミカは同時代の預言者たちに劣らず、不吉なことばかりを告げる預言者でした。ミカ書の最初の3章は、神の民が行ってきた悪行に対する神の怒りや悲しみとともに、近づきつつある破滅を述べています。

しかし、神は御自分の民に見切りをつけてはおられませんでした。預言者たちの耳障りな声や厳しいメッセージでさえ、御自分の民に対する神の絶えざる関心を伝えていました。神が彼らに警告をお与えになったのは、彼らに対する愛と配慮のゆえでした。神は、彼らを赦し、回復したいと願っておられました。神はいつまでも怒りを保たれることはありません（ミカ7：18～20参照）。

よく知られている「決まり文句」——正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって歩め——の背景は、そのようなものです。簡単そうに聞こえるかもしれませんが、実際にそのような信仰を生きることは、とりわけそうすることが周囲の社会と調和していないように見えるときには、はるかに難しいことです。ほかの人たちが不正行為によって利益を得、慈しみをあざ笑い、誇らしげにからかうときに、正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって歩むには、勇気と忍耐が必要とされます。しかし、私たちは独りだけでそうするものではありません。私たちがこのように行動するとき、私たちは神とともに歩んでいるのです。

◆ 正義を行うこと、慈しみを愛すること、へりくだって神とともに歩むことの間には、どのようなつながりがありますか。

もし私たちが「ソドムの罪」についてクリスチャンの一同に尋ねるなら、たぶん多くの人さまざまな性的罪やほかの形の悪行について説明を始めるでしょう。結局のところ、創世記 19:1～13 は、単に滅びの機が熟しただけでない、病んで歪んだ社会を描いています。

しかし大変興味深いことに、先の質問に対する答えは、それ以上にもっと複雑です。エゼキエルの次の描写を考えてみてください——「お前の妹ソドムの罪はこれである。彼女とその娘たちは高慢で、食物に飽き安閑と暮らしていながら、貧しい者、乏しい者を助けようとしなかった」（エゼ 16:49）。主がこの町の中で見いだされるほかの形の悪行を見逃されないことは明らかですが、エゼキエルはここで、経済的不公正や乏しい者たちへの配慮のなさに注目しています。神の目から見ると、こういった経済的な罪は、性的な罪と同じように悪いのでしょうか。

アモス、ミカ、イザヤたちよりもあとの時代に登場したエゼキエルの初期の預言は、同じように破滅の到来の警告を発しています。しかし、エルサレムがバビロン人の手に落ち、市民が捕虜にされたあと、エゼキエルの焦点は、より神の回復の約束へと移っています。

**問4** エゼキエル 34:2～4、7～16 を読んでください。イスラエルの墮落した指導者たちへの神の評価と、神御自身の牧者としての働きとを比べてください。最も弱い「羊」に対する彼らの扱いは、神の方法といかに対照的ですか。

ソドムにたとえられるほど、彼らは悪い状態でしたが、主はそれでもなお、彼らを悪から離すことを願って手を差し伸べておられました。神が御自分の民のために更新された計画では、彼らは自分たちの土地に戻り、エルサレムは修復され、神殿は再建されるのです。神がお与えになった祭りは再び祝われ、土地は民の間で嗣業として再び平等に分けられるでしょう（エゼ 47:13～48:29 参照）。御自分の民に対する神の計画は、エジプトからの救出後にモーセとイスラエルの人々に初めて与えられたときのように、彼らが捕囚から戻るとともに再開されるのです。神のそのような意図は明白であるように思えます。そこには、部外者と考えられる人たちとともに、社会の最も弱い人たちへの気遣いが含まれていました。

◆ より良い選択をする機会を与えられたあとでも間違っただけをしてきた御自分の民にさえ、神は第二の（あるいは、それ以上の）機会を与えてくださいます。私たちの神がそのような神であることは、あなたにとっていかに重要ですか。

**問5** イザヤ1:15～23、3:13～15、5:7、8を読んでください。周囲の社会の中で見たことへのこの預言者の反応を、あなたならどう説明しますか。

イザヤ書の冒頭の説教（最初の5章）には、神の民が築いてきたような社会に対する痛烈な非難、神を拒絶し、悪行を続けることへの差し迫った裁きの警告、そして、もし民が神に立ち帰り、生活と社会を改革する場合の希望の提供などが混在しています。しかし、イザヤの言葉を通して伝わる最も強い感情は、たぶん悲しみでしょう。この預言者は、神がどのようなお方であるのか、神が御自分の民に何を望んでおられるのかということに対する自分の理解に基づいて、これまでに失われてしまったもの、傷つけられている無数の忘れ去られた人たち、そしてこの国に下されようとしている裁きを嘆いています。

イザヤは、預言者としての働きを通じてこのパターンを繰り返します。彼は人々に、神が彼らのために成し遂げてくださったことを思い出すように勧めるとともに、将来、神が彼らのためにしたいと望んでおられることの希望をも提供します。それゆえ、彼らは今、主を尋ね求めねばなりません。なぜなら、このような新たにされた神との関係には、現在の悪行を悔いることと、他者への接し方を変えることが含まれるからです。

イザヤ58章と59章で、イザヤは具体的に再び正義に関心を寄せます。彼は改めて、「正義は退き、恵みの業は遠くに立つ。まことは広場でよろめき／正しいことは通ることもできない」（イザ59:14）社会を描写します。しかし彼はまた、神がそれをご存じであり、御自分の民を救い出される——「主は贖<sup>あがな</sup>う者として……来られる」（同59:20）——ことも断言しています。

イザヤ書全体を通じて、この預言者の注意のかなりの部分は、メシア到来の宣言に向けられています。メシアとは、地上における神の統治を究極的に再構築し、正義、憐れみ、いやし、回復をもたらしてくださるお方です。

◆ イザヤ9:5、6（口語訳9:6、7）、11:1～5、42:1～7、53:4～6を読んでください。これらの預言は、イエスの生涯、働き、死に関してあなたが理解していることと、いかに合っていますか。これらの預言は、イエスがこの世に来られる目的について、どのようなことを示唆していますか。

参考資料として、『国と指導者』第25章「預言者イザヤの召し」を読んでください。

「預言者たちは、その時代のはなはだしい圧迫、悪評高い不正、異常なまでの華美とぜいたく、恥を忘れた宴楽と醉酒、野卑な放蕩と墮落<sup>はうろう</sup>に対して、その声をあげたのであるが、彼らの抗議も、彼らの罪の告発も、その効果がなかった」(『希望への光』497ページ、『国と指導者』上巻249ページ)。

イザヤにとって、「国民の社会情勢の展望は、特に失望的であった。人々は、利益を追求し、家に家を建て連ね、田畑に田畑をまし加えていた。……正義はゆがめられ、貧者に対するあわれみは示されなかった。……弱者を保証することが義務であった長官たちでさえ、貧者や困窮者、寡婦やみなしごの叫びに耳を傾けなかった。……」

ウジヤの治世の晩年のこうした状態の下で、イザヤが、神の警告と譴責<sup>けんせき</sup>の使命をユダに伝えるように召された時に、その責任を回避しようとしたのは驚くに当たらない。彼は、かたくなな抵抗に会うことをよく知っていた」(同505ページ、同270、271ページ)。

「預言者たちと主ご自身のこうした明白な言葉を、われわれは、すべての魂に対する神の声として受け入れなければならない。われわれは、重荷を負い、圧迫されている人々に対して、憐れみと思いやりに満ちた行為を行い、キリスト者的親切を示す機会を見失ってはならない」(同512、513ページ、同292ページ)。

### 話し合いのための質問

- ① 預言の機能は未来を予告することだと、私たちはしばしば理解しています。旧約聖書の預言者たちの目が、彼らの住んでいた世界に向けられていたという認識は、預言者の役割に対するあなたの理解をいかに変えますか。

#### まとめ

旧約聖書の預言者たちは、同胞に対して神の道と御旨を情熱的に、しばしば怒り、憤慨しながら擁護しました。神御自身が表明された懸念を反映していたので、その情熱は、貧しい人や虐げられた人たちのための正義を重視していました。神に立ち帰るようという預言者たちの呼びかけには、不正行為を終わらせることが含まれており、それは、神が御自分の民のより良い未来のために行うと将来展望の中で約束なされたことでもあったのです。